

本物に出会わせてあげたい(同窓会事業)

昨年度から「生徒に本物との出会いを提供したい」という同窓会からの声かけによる事業が始まりました。平成25年度は津軽三味線の奏者、二代目高橋竹山さんとピアニスト小田朋美さんによるコンサートを開催していただきました。フロアの間近で、奏者の熱気溢れる演奏が生徒の心を打ちました。本年度は、古今亭菊千代さんによる落語会が開催されました。豪華な企画に生徒も職員も全員が胸をときめかせています。

足助中学校 校長 藤嶋力央



足助の夏のイベント

☆夏休み子ども入館無料と夏休み限定体験 7月19日(土)～8月31日(日) 三州足助屋敷

水鉄砲・綿のアクセサリ・うちわ作りや藍の生染め体験などが楽しめます。
申込み・問合せは三州足助屋敷(05665-62-1188)

☆足助の夏祭り

たんころりんの夕涼み 8月2日(土)～8月15日(金)
万灯祭り 足助川遊歩道 8月13日(水)・14日(木) 18:00～
花火大会 足助グラウンド 8月14日(木) 20:30～



みんなで
出かけよう!!

☆霧山自治会(霧山祇園祭)

白山神社境内 7月19日(土) 17:30～
山車・引き出し

☆霧山自治会(お日さまコーン収穫祭)

霧山町郷戸広場 7月20日(日) 9:30～
コーン収穫体験、試食会など

☆御蔵自治会(御蔵円山の夕べ)

御蔵小学校 8月2日(土) 18:00～
盆踊り、花火、お囃子、餅投げなど

☆則定自治会(則定自治会盆踊り大会)

則定小学校 8月2日(土) 18:00～
盆踊り、バザー

☆大蔵自治会(大蔵サマーフェスティバル)

足助農山村広場 8月2日(土) 19:00～
盆踊り、花火大会など

☆新盛自治会(2014新盛の夕べ)

新盛小学校 8月9日(土) 18:00～
盆踊り、菓子投げ、金魚すくい、バザーなど

☆冷田自治会(冷田コミュニティ夏祭り)

冷田小学校 8月9日(土) 18:00～
盆踊り、打ち上げ花火、くじ引きなど

☆明和自治会(赤田和の夕べ)

明和小学校 8月10日(日) 18:30～
盆踊り、花火大会、おたのしみ抽選会など

☆綾渡の夜念仏と盆踊

平勝寺 8月10日(日)・15日(金)
夜念仏と盆踊

☆上冷田自治会(上冷田自治会夏祭り)

上冷田集会所 8月13日(水) 18:00～
盆踊り、手持ち花火、くじ引きなど

あすけ通信

あすけ通信ではBlog・Twitter・Facebookもやっています!!
ぜひ一度ご覧になってください!!
足助の魅力が満載ですよ☆ 「あすけ通信」で検索!!

発行 あすけ通信編集委員会事務局
豊田市役所 足助支所
(豊田市足助町宮ノ後26-2)
電話 0565-62-0601
Email asukesushin@city.toyota.aichi.jp

開かれた病院

—地域のコミュニティの場です—

病院は病める人々を治療するところで、患者様の安静を保ち、安全な医療を提供することを目的としています。

病院の目的は治療を中心とした医療が一義的ではありますが、地域医療として考えれば、病気予防のワクチン接種や住民健診などの保健業務、在宅医療を支える介護保険サービス業務も重要な仕事であります。また、診療所の少ない田舎では外来診療も大事な業務であります。そのように考えると「病院」は地域の保健・医療・福祉・介護の中心であり、必然的に多くの人々が集う場所になります。地域のコミュニティとして大事な空間であるべきでしょう。病院は、行きたくない場所として言われるのではなく、玄関を入ったら暖かさを感じ、訪れやすい処であるべきと考えます。時間があまったら、友人と話をしてもいいな!もっと言えば、ボランティアとして手伝ってもいいと思われる病院が、地域の人々が参加する病院、すなわち「開かれた病院」でありましょう。

これらを踏まえて「開かれた病院」と表現したいと思います。単にいつでも出入り自由である、面会時間の制限がない、という意味ではありません。

病院に入ったら、気持ちが和らぐ、暖かい気持ちになる、癒される感じがするなど、雰囲気?を指しています。当然、建物自体が新しく、広く、きれいであることは重要で、足助病院もホテル並みのアメニティーとなりました。

病める人だけでなく、高校生も幼稚園児も老若男女を問わず、地域の人すべてに、病院のことを知っていただき、そして参加して欲しいのです。

病院ホールはまさにコミュニティの場です。バスを待ちながら友人との雑談、テレビを見ながらのお茶。ただし公共の場ですから、お互いに譲り合い人権尊重を大事に。また、中庭(パティオ)でまったりしたり、花を愛でたり、時には草をとったり、楽しんでください。待っています。



足助病院 院長 早川 富博



病める人だけでなく、高校生も幼稚園児も老若男女を問わず、地域の人すべてに、病院のことを知っていただき、そして参加して欲しいのです。

あすけ通信

第九号
2014

足助とつながる情報誌

お品書き

- 足助から —
- みーんな変わってなかった
- あすけルネッサンス開催! —
- 足助の恒例行事「あすけルネッサンス」が開催されました
- あすっこ紹介 —
- 前回に引き続き、団体のあすっこ!
- 交流館で活動されている「図書ボランティア」さんを紹介
- 小原・旭地区でも地域情報誌が創刊されました!! —
- 小原地区の地域情報誌「おばらのじかん」、
- 旭地区の地域情報誌「シトルカン」のご紹介
- 足助中学校校長先生より —
- 本物に出会わせてあげたい(同窓会事業)
- 足助病院 院長先生より —
- 開かれた病院 —地域のコミュニティの場です—
- 足助の夏のイベント —
- 足助は夏もイベント盛り沢山!!



— 足助から —

鉄板の熱気で 汗だくのおばちゃん
赤いのれんとマリリン・モンローが笑う鏡
銀色光るお皿にこんもり 和風ピザ

「ごちそうさま」も「ありがとうね」も
みーんな変わってはいなかった

2014年6月 たつみにて
※6月15日に閉店されました。

あすけルネッサンス開催!



5月3日(土)から5月5日(月)にかけて「あすけルネッサンス」が開催され、市内外から多くの方が足助に訪れました。足助の町並みでは乗り物体験教室をはじめ、昔の遊び体験、スタンプラリー、香風溪広場ではアマゴつかみどり、木工教室、竹とんぼ作り、シャボン玉や木の実アートなど様々なイベントに参加し、ゴールデンウィークのひとつを楽しんでいらっしゃいました。

(足助観光協会)

あすっこ紹介

団体編

その9 図書ボランティア (平成25年結成)



ろと情報交換ができるし、飾り付けや本の選び方など勉強になる。現在メンバーは10名で、足助地区在住の30代から50代の女性を中心に構成されている。図書展示の活動は年4回だが、個々の活動として各地域で読み聞かせをしたり、図書室利用時に本の整理整頓などを行っている。昨年度は足助地区ふれあいまつりで、読み聞かせのブースを開いた。

読み聞かせ講座をきっかけに参加された方は、「子ども園でたくさんのお友達に本を読み聞かせする機会があって、すごく楽しかったので講座に参加しました。地域の子たちといっしょに絵本を楽しむことで、本を読む習慣がつけばいいなと思っています。」と話してくださった。また、「本が好きでボランティアが好きなので、図書ボランティアを募集しているのを知って参加するようになりました。」という方もあった。現在メンバー募集中。「本が好き、読み聞かせが好き、工作が好き、絵を描くのが好き、整理整頓が好き、アイデアを出すのが好き」という方大歓迎。お問い合わせは足助交流館(☎0565-62-1251)まで。

(た)

昨年度、足助交流館で開催した「本とおともだち」という読み聞かせ講座の中で、本の活用をテーマとした図書ボランティア養成講座が行われた。図書館の活用の仕方をみんなで話し合ったところ、図書展示をやるということになり、その実践活動から図書ボランティアがはじまった。

最初に作った展示が秋バージョンで、次は冬バージョンという形で3か月ごとに活動日を決めて模様替えをしている。その日に都合の良い人が足助交流館2階の図書室に集まって、無理なく自由な形で活動している。毎回、展示テーマに沿った内容の本を選んで展示する。切り紙のモビールや折り紙など、アイデアを出し合って、それぞれの得意分野を活かして飾り付ける。

手作業をしながらのおしゃべりが楽しい。いろいろ



小原・旭地区でも地域情報誌が創刊されました!!

おばらのじかん 小原地区

小原を出て行った方や興味のある方に小原の魅力を再発見してもらえるような情報誌、若い方も自然と手が伸びるオシャレでカッコイイ小原の情報誌をつくれなかと始めたのが『おばらのじかん』。

小原在住のみんで掲載内容を考え、自ら取材。原稿作成、デザイン、編集までの全てを行っています。2014年3月に創刊し、今年度は3回の発行を予定しています。Uターンした“先輩”へのインタビューやおばらっきーが小原のお店を紹介するコーナーなど最新の小原情報満載です。



『おばらのじかん』創刊号

シットルカン 旭地区

『シットルカン』は、旭への誇りと愛着を育てることを目的に創刊するもので、掲載内容の検討、取材、執筆、編集に至る工程をあさひ若者会のメンバーを中心とする6人で取り組んでいます。『シットルカン』とは、旭地区の方言で『知っていますか?』という意味です。情報誌では、旭地区の昔の様子のほか、旭地区に嫁いできたお嫁さんや地元で頑張る若者の暮らしぶりにスポットを当てて記事にしているなど、U・Iターン経験のあるメンバーの視点や若者ならではの視点で魅力を紹介しています。



編集長を務める
木浦 幸加さん